

ビスフェノール A に環境ホルモン作用の疑い強まる



The Knights

6月12日に開催された環境省の「内分泌攪乱化学物質問題検討会」で、メダカを用いた試験でビスフェノール A について内分泌攪乱化学物質(環境ホルモン)の作用が見られたと報告された。

環境省では、平成12年度から「環境ホルモン戦略計画 SPEED'98」にリストアップされている内分泌攪乱化学物質の疑いがある物質のうち優先順位の高いものから有害性評価を行っています。今回の検討会では、12年度選定物質のうち、平成14年6月までに判明しなかった哺乳類への3物質の試験結果、魚類への5物質の追加試験結果、及び13年度選定物質のうちビスフェノール A の哺乳類に対する試験以外の各試験結果でした。

いずれの物質も、哺乳類に関する明らかな内分泌攪乱作用は認められませんでした。魚類に関する有害性評価の結果では、ビスフェノール A で女性ホルモン受容体との結合性、肝臓中ビテロジェニン濃度、精巣卵出現、孵化日数で統計学的に有意な影響が認められた。今後、確定試験として約180日間、2世代にわたりビスフェノール A にさらす試験を実施することが決まった。

フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル、フタル酸ジシクロヘキシル、アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル、ベンゾフェノンの5物質については、頻度は低いものの、精巣卵が確認されたが、昨年度の試験結果を踏まえると、受精率に悪影響を及ぼすとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められませんでした。

また、哺乳を用いた人健康への内分泌攪乱作用に関する試験では、ノニルフェノールなど10物質について、げっ歯類を用いた一世代試験、及び試験管内試験が行われましたが、いずれも低用量での明らかな内分泌攪乱作用は認められませんでした。

資料:2003年6月18日付 環境新聞

2003年6月12日付 EIC ネットホームページ

環境技術課 坂田旭子

The Knights of Environmental Science
内藤環境管理株式会社

〒336-0015 埼玉県さいたま市南区大字太田窪 2051 番地 2
TEL.048-887-2590 FAX.048-886-2817
URL : www.knights.co.jp

事業内容

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 環境管理に伴う調査・測定・化学分析 | 5 土壌汚染対策法に基づく土壌汚染状況調査 |
| 2 ダイオキシン類に係る濃度計量証明 | 6 労働衛生管理に伴う作業環境測定 |
| 3 ビル管理に伴う水質検査・空気環境測定 | 7 トータルサニテーション管理 |
| 4 水道法第20条に基づく水質検査 | 8 委託試験・研究・開発 |

